



風そよぐ^{なら}檜の小川の夕暮れは

禊^{みそぎ}ぞ夏のしるしなりける

【従二位家隆】

遠く万葉^{まんよう}のむかしより行われてきた「禊^{みそぎ}」は
川や海にて罪穢^{けが}れを払い身を清める陰曆^{いんれき}6月の大祓^{おおはらえ}であり
夏の季語として詠われてきました。



6月、伊勢の神宮においては月次祭^{つきなみさい}がとり行われます。

この月次祭^{つきなみさい}にあわせて特別講習会「伊勢の風を感じる会」を開催します。

神宮の神域^{かみじやま}・神路山より流れる五十鈴川で
日本古来の修養法「禊^{みそぎ}」の精神にて「水行^{すいぎょう}」をおこない
身も心も清めて奉観いたします。

夜の帳^{とれ}の降りた千年木立の静寂のなか
神宮の柱^{もり}にて太古より続けられてきたこの尊いお祀^{まつ}りは
魂の奥にねむる日本人の精神を呼び醒まします。

「心のふるさと」「魂の故郷^{ふるさと}」とも呼ばれ

遠い祖先よりあこがれ慕われてきた「祈^{いのり}」の地 伊勢に参りませんか。



伊勢の風を感じる会

6/16~17

【神宮とお祭り】

神宮は、「伊勢神宮」や「お伊勢さん」などと呼ばれて親しまれていますが、正式な名称は「神宮(じんぐう)」です。わが国で最も尊いお宮だからです。「神宮」とは、皇大神宮(こうたいじんぐう)と豊受大神宮(とようけだいじんぐう)の二つの正宮を中心に、別宮(べつぐう)、摂社(せっしゃ)、末社(まつしゃ)、所管社(しょかんしゃ)の総計125のお社(やしろ)の総称です。

神宮では年間に千数百回ものお祭りが行われています。神宮のお祭りの中でも、神嘗祭(かんなめさい)と6月・12月の月次祭(つきなみさい)は古来、三節祭(さんせつさい)といわれ、由緒ある重要なお祭りです。また、これに祈年祭(きねんさい)と新嘗祭(にいなめさい)を加えて、五大祭と呼ぶこともあります。祈年祭、月次祭、神嘗祭、新嘗祭には、皇室より幣帛(へいはく)の奉納があり、月次祭を除くお祭りには勅使を遣わされます。

神宮のお祭りの本義は、天皇が親しく天照大御神をお祭りされるところにあります。ご神徳を称え奉り、ご神恩に奉謝されるとともに、国家の隆昌と国民の幸福をお祈りされるのです。

【写真/奥山理氏 提供】

